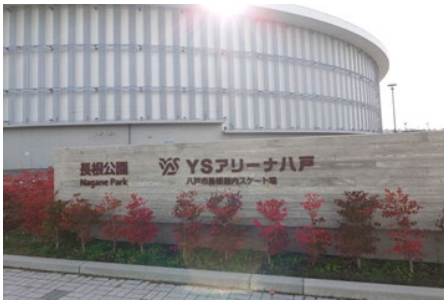
《審判員育成事業》

# 2025 ISU 四大陸スピードスケート選手権大会見学レポート

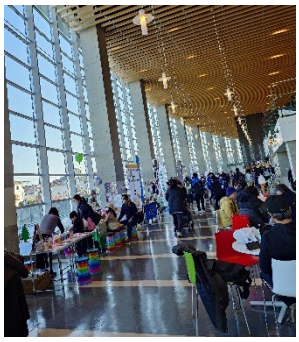
西原　稚葉

2024 年 11 月 16 日(土)と 17 日(日)の 2 日間、八戸市 YS アリーナにて開催された四大陸選手権に行ってまいりました。大会は15日(金)から3日間の日程で開催されておりました。

私自身、八戸のリンクはインターハイ以来で 11 年ぶり、屋内リンクとなってからは初めての訪問でした。



■会場について



外観は大きいように見えましたが、出入口は 1 階 2 階とも片側に集約されていて出入りしやすく、コンパクトな印象を受けました。2 階に入ってすぐの開放的なスペースは普段はスケートをしに来た人以外にも開放されているそうです。

観客席が開く前から開放スペースは入ることができ、常設売店のほかイベント出店がいくつかありにぎわっていました。外にもキッチンカーが数台、ちょっとしたお祭りのようで楽しい雰囲気でした。

スケーターラウンジがリンクを上から見下ろせる場所に設けられ、選手やチーム関係者でにぎわっていました。食べ物は和食から洋食、果物など種類が豊富に取り揃えられていました。今大会ではハンバーガーが人気だったそうです。

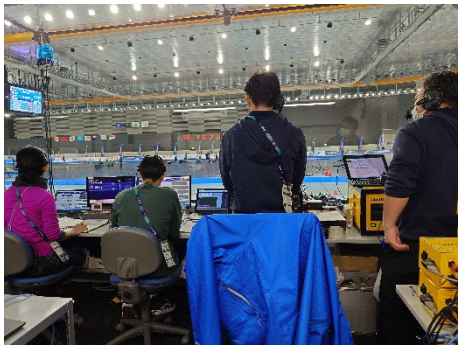
■競技運営について

基本的にはどこのリンクもどんな大会でも同じ規則に沿って行われているので変わりはないですが、国内競技会や長野での大会との違いを意識しながらさまざまな部署を見学させていただきました。

競技役員ミーティングでは全体ミーティング終了後、ポジション毎にも入念な打ち合わせが行われていました。これによって関係する他部署との連携がスムーズになり、新たに競技役員として参加してくださる方が馴染みやすくなると思いました。

国際大会では選手がトランスポンダーを装着し、記録処理はシステム全般を SEIKO が、リザルトシステムはＳＣＧ各社が担当、記録員は普段の大会より役割が少なく、館内表示と SPORTSLINK でリアルタイムに結果が見られるよう確認していることが主な仕事とのことでした。SPORTSLINK 用データの設定はスポーツエキスパート→総務→SEIKO という流れで行われたことを記録担当者から教わりました。

場内アナウンスが英語と日本語で行われていたことも普段と異なる部分で基本的には英語優先で行われていました。



競技運営でもっとも注目したことは、競技役員のコーナージャッジとは別に、高校生スタッフがスケート靴を履いてポイント並べ・撤収を行っていたことでした。

県内では氷の確認や補修までできるよう、スケート靴で氷に上がることができる人を充てていますが、国際大会など大きな競技会で高校生が間近でレースを見て雰囲気を感じながらレースを観戦できるこのような配置は良いなと思いました。

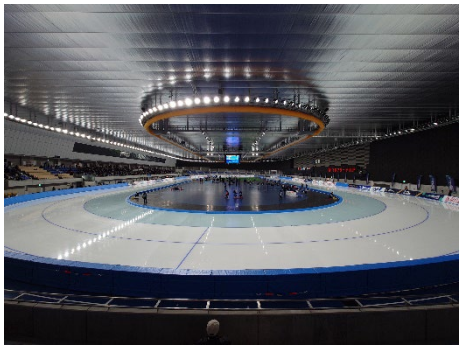
■全体を通して

印象に残っていることの１つに、スタッフ ID を着用し２階にいた時、子ども連れで観戦に来られた方に声をかけられました。

「何位以内に入ったら来年も出られるのですか？」と聞かれ、スケートに詳しくないようでしたが、そういった方も気軽に来てもらうことができる場所になっているなと感じました。

エムウェーブも選手や関係者に選んでもらえるリンクであり続けることはもちろん、スケートに親しみのない方にも興味を持ってもらい、気軽に足を運んでもらえるような場所にしていきたいと改めて思いました。

長野市スケート協会会員の選手たちの活躍を現地で見て応援することができたのも良かったです。



受け入れてくださった青森県スケート連盟初め大会運営に携わっていた方々や共立プランニングの皆様のおかげで有意義な 2 日間を過ごすことができました。今回学んだことをエムウェーブや県内で行われる大会に活かして経験を積んでいくことで、本スケート協会の発展に貢献できるよう努めてまいります。貴重な機会をいただきありがとうございました。